

活動分野	森に親しむ講座		
タイトル	松戸の緑と歴史に学ぶ～16代?徳川将軍の庭を探る		
実施日時	平成30年4月25日(水) 9時30分～14時00分		
実施場所	松戸小山浅間神社・千葉大学園芸学部・戸定邸、及び、その庭園		
受講者	9名	FIC会員	12名

活動の内容

天気予報で午前中は強い風雨が予想される中、9名の参加者を得て予定通り出発。バスを降りると横殴りの雨で先行きが心配されたが、浅間神社境内の照葉樹林に入るとさすがに和らぎなんとかスタートを切れる。

神域は房総台地から切り離された独立した小山であるため、古くからそれを富士山に見立てた富士山信仰の対象として地元で崇敬されてきた。その証左の猿の像や青面金剛などを紹介。神域全体が長い間大切に守られてきた結果、小規模ではあるがほぼ極相に達した照葉樹林になっており、アカガシなどの巨木が林立する様子を観察した。

神社から雨中を千葉大学園芸学部に向かう。旧正門前で、キャンパスの歴史と今に残る3つの西洋式庭園の違いについての簡単な説明をした後、それぞれの庭園（イギリス風景式庭園・フランス式庭園・イタリア式庭園）を案内。途中、最近行われている見事な透かし剪定により蘇った「深山含笑」などを観察し昼食休憩に入った。なお、大学生協当局のご協力により、大学の施設内で風雨を避けられ助かった。

昼食後は、少し風雨が弱まったなかを戸定邸に向かう。戸定邸スタッフの方の案内で、国指定名勝に指定されたことを契機におよそ130年ぶりに修復が成ったばかりでまだ未公開の庭園に入れて頂く。作ったのは徳川昭武。徳川慶喜によって第16代将軍に擬せられ経験を積んでいたが、大政奉還の結果それを果たせなかった人物で、彼の個人的な世界観、趣味などを存分に盛り込んだ建物と庭をゆっくりと鑑賞する。

庭園は現存する日本最古の洋風庭園。芝生が張り巡らされ、徳川家に深い縁のあるコウヤマキの列植や、遙かに皇居を見通す方向には鳳凰が宿ると言われるアオギリの列植、目の下の江戸川の流れの先に東京の町並み、更にその先に富士山を眺望するスケールの大きな景色を、再建されたばかりの四阿から偲ぶ。一方、重要文化財の戸定邸は、シティガイドの方々の解説を楽しみながら明治初期の佇まいが残る邸内を巡る。見学を終えて外に出ると、雨上がりの陽差しが眩しかった。



浅間神社参道



フランス式庭園のツツジ園



洋風庭園要素の芝生



再建された四阿